

政策	11 豊かな自然環境の保全						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民、職員						
施策が目指す姿	地域の貴重な財産である豊かな自然環境が次世代に引き継がれる。 地球環境にやさしい循環型社会の形成が図られる。 市民一人ひとりによる自発的な環境活動が展開される。						
成果指標	環境保全施策に対する市民満足度...5年間(H25～29)で65%へ増加(現状値60%) 環境保全に取り組んでいる市民の割合...5年間(H25～29)で100%達成						
目標達成状況		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	成果指標1 [ % ]	予定				65.00	/
		実績					
	成果指標2 [ % ]	予定				100.00	/
		実績					
	成果指標3 [ ]	予定					/
		実績					
	成果指標4 [ ]	予定					/
実績							
トータルコスト (千円)	予定	2,205,196	1,851,108	1,788,267			/
	実績	1,980,053	1,904,219	1,766,048			
内部評価	貢献度	豊かな自然環境の保全は市民の参加と協力が不可欠であり、市民参加割合の100%達成は大きく貢献すると考えられる。					
	達成状況	単位施策の達成状況が順調に推移しているため、目標達成が見込まれる。					
	課題	資源の循環型社会形成のために、市民や企業が積極的に取り組めるよう意識づくりが必要である。					
	取組方針	自然環境の保全は市民・企業の協力が必要であるため、市民・企業へ事業の更なる周知や啓発を実施し、目標達成を目指す。					
外部評価	豊かな自然環境の保全については、市民一人ひとりへの意識づけが大切であると考えられる。そのため、小中学校等での環境教育にも力を入れ、それを家庭や自治会等での取り組みにつなげられるような施策を検討すべきである。 環境保全の合言葉である「環境を地球規模で考え、できることから実行しよう」を実践することが必要である。具体的には、生ごみの再利用によるゴミの減量によって地球温暖化防止につながることや、除草剤等の使用を減らすことで水質の保全につながる。そこで、関連イベント等を実施し、市民に対し啓発すべきと考える。						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	1101	環境の保全				1,704,463	100
	1102	循環型社会の形成				15,678	100
	1103	新エネルギーの推進				45,907	80

# 平成27年度 基本 施策評価表 補表

施策	11 豊かな自然環境の保全		
区分	妥当性	妥当	豊かな自然環境の保全に対する評価妥当である。
	コスト削減の余地	有	事業の集約等を実施することによりコスト削減の余地がある
	受益者負担	適正	受益者負担はないため妥当である。
	上位貢献度	有効	事業を適正に実施することにより施策への貢献度は有効である
	類似事業の有無	無	環境保全の類似事業はない
	成果向上の余地	有	事業を適正に実施することを推進することにより成果は向上する
内部評価	貢献度		
	達成状況	3Rポスターの募集や遊水地を中心とした自然環境学習、水辺の教室等の事業を継続して実施しており、市民からの認知も高まり一定数の参加を頂いている。	
	課題	市民一人一人が参加を容易にするため、市民・事業者・行政それぞれの取り組みを広く周知する	
	取組方針	市民・企業への更なる周知啓発のため、事業の周知を検討工夫する。	